

書道を紹介するため、私は一昨年の暮れに渡米、一年半ニューヨークやサンフランシスコに滞在した。アメリカ人のためにも、私のためにも、非常に有益であったのは、直接手をとって彼らに「書」を指導し体験させ、そして何ものを創造させたことであった。

彼らを指導するときは、中国や日本の代表的な古法帖を使った。彼らの経験した芸術の歴史には、線表現という分野がなかったから、「書」は彼らにとって、まったく新しい表現手段であった。それゆえ筆を持たせると、書こうとしないで塗ろうとする。私は文字の意味を教えることよりも、まず線の表現を直接に体験させ、理解させるのが目的だった。彼らは、うっかりすると、手本をさかさまに見て習うといったこともめずらしくなかったが、その反面、彼らの純な若々しい心は書の妙味を会得し、そくそく優秀な臨書作品を作った。日本に持ち帰ったこの人たちの作品を友人の書家に見せた時、皆その表現が自由で、理解の仕方がたしかに驚いた。

私が古典を通して理解している書道は、文学的意味と関係なく、線を通しての人間の表出だと思っ

カッパの国

比田井南谷

いして、「書」ではないという声が強



旨に合った作品を作ってみよう

めにできた習作から選んでみた。



っと行動的に出て、この私の作品

「作品」 比田井南谷